

令和5年度 学校評価結果報告書

刈谷市立朝日小学校

1 学校評価アンケート調査対象及び実施期間
児童、保護者、教職員（令和5年12月）

2 学校評価アンケート調査結果
裏面をご覧ください。

3 学教評価アンケート調査結果の傾向

- (1) 全体の傾向は、1（あてはまる）と2（どちらかといえば、あてはまる）などの肯定的ポイントが高い傾向にある。いくつかの項目について、回答者間で肯定的なポイントの割合にずれが見られるが、その要因は「わからない」の回答が多い場合であることが読み取れた。このことから、児童には自分に自信をもたせる取組を、保護者や地域には情報提供を進める取組を積極的に行っていく必要がある。
- (2) 児童アンケートの中で、否定的なポイントが20を越えるものについて、改善が必要な状況である。特に、「いじめなど困っている時、先生に相談できる」については、いじめアンケートの実施に併せた個人面談を行っている。しかし、いじめは常に起きる可能性があることを考えると、困ったら相談できる心理的な環境作りが不可欠である。担任だけでなく、学年の職員や養護教諭など、職員全体で一人一人との関係づくりに努めたい。
- (3) 保護者アンケートの中で、否定的なポイントが20を越えるものについて、改善が必要な状況である。「お子さんは、体を動かすことやバランスのとれた食事をするなど、自分の体力や健康に気を付けた生活をしていると思う」について、食育面では今後も食育アンケートや食育通信、家庭における食生活啓発活動等を行うことで食に対する意識を高めていきたい。また運動面については、体育の授業内容の見直しや外遊びの奨励を行っていきたい。「お子さんは、家での学習に進んで取り組んでいると思う」について、児童の認識とずれがあることから、保護者に尽力していただくことで、児童は自らが取り組んでいると感じていることが分かる。このような児童の前向きな気持ちを、保護者と職員が連携して育てることで、自ら家庭学習に取り組める児童を増やしていきたい。
- (4) 地域の役職者を対象にアンケート調査については、本年度も全体的には満足のできる回答を得ることができた。しかし一方、「朝日小学校の児童は、地域の方に挨拶や返事ができると思う」のポイントが減った。コロナウイルス感染症により、多くの児童が元気のよい日々の挨拶を控えていたことが考えられるが、今後はコロナ禍以前のように児童が積極的に地域の方に挨拶や返事ができるよう、学級活動や道徳の授業、また児童会活動等を通して挨拶の大切さを伝えていきたい。

4 学校関係者評価

- (1) 地域の方が、朝日小学校の活動に関わり協力したいと回答している割合が高い点が良い。
- (2) 「朝日小学校の児童は、地域の方に挨拶や返事ができると思う」に対しての否定的な回答の割合がやや高いが、パトロール隊などの大人からも児童に対し元気な挨拶をしていきたい。
- (3) 職員は児童のよいところを把握し支援しているが、児童に伝わっていない部分があるので、励まし方に工夫が必要だと考えられる。また、保護者も積極的に児童を褒めることで、児童のよさを日常的に引き出すことができると考える。

5 来年度に向けての改善策

- (1) 児童が積極的に地域の方に挨拶や返事ができるよう、職員が日々の学校生活の中で範を示すだけでなく、学級活動や道徳の授業の充実、また児童会活動等を通して挨拶の大切さを伝えていく。
- (2) いじめの早期発見・早期解決のために、児童が相談しやすい雰囲気や機会をつくるだけでなく、職員が児童の相談に対し、傾聴するスキルを向上させる取組を行う必要がある。